

事業報告

1 事業名	コミュニティーワークショッププロジェクト ～ストーリーテリングを通してつながる～
2 事業実施期間	令和3年 7月 ～ 令和4年2月
3 事業目的	【事業を行うことにより解決された課題】 在住外国人と日本人の交流がなく、言葉の壁、心の壁をもちながら、地域で暮らしていることから、本ワークショップ参加により相互理解を深め、地域コミュニティーへの関心と共通の価値観を育み、地域の仲間としての関係性を構築する。 ということを実践し、解決された課題は、コロナ禍での孤立感やストレスの共有から、参加者間の相互理解と関係性の構築である。
4 公益性	【市民や地域への社会貢献度について】 SDGs10：人や国の不平等をなくそう SDGs11：住み続けられるまちづくりを SDGs17：パートナーシップで目標を達成しよう 持続可能な取り組みは、地域市民としての意思決定の声が大切だと考える。本ワークショップは、デザイン思考とストーリーテリングに基づいてデザインされ、参加者はナレーションスタイルでストーリーを作成し共有する。この取り組みは、SDGs10 人や国の不平等をなくそう、SDGs11 住み続けられるまちづくりにアプローチし、日常の問題の解決するデザインを提案する。

<p>5 事業内容</p>	<p>インクルーシブコミュニティーワークショップの開催 デザイン思考とストーリーテリングに基づいてデザインされた参加型ワークショップを開催していきたい。</p> <p>■内容：外国人・日本人参加者がひとつのチームになり、トピックについてのイメージやアイデアを共有しながら、ストーリーの創造を通して、コミュニケーション深めていく。ストーリーの展開は自由だが、最後は問題解決への展開が求められる。具体的なトピックを掲げることで、参加者同士の経験がシェアされ、自由で多様なアイデアが生み出されることから、ワークショップの目的である「協力して、ストーリーを通じて日常の問題の解決」に向かっていく市民を増やす。</p> <p>本プログラムは、那覇日本語サークルどうしぐわーメンバーでもあり、多文化教育研究者であるオスワルドカストロをメインファシリテーターとし、開催した。</p> <p>2021年4月～5月、那覇日本語サークルどうしぐわーで、トライアルとして開催し、トピックにゴミ問題を掲げ、中国、イギリス、アメリカ、メキシコ、ベトナム、アルゼンチン出身者が、多様なアイデアを共有し、それぞれのグループにおいてストーリーを展開した。このワークショップを通して、日本語の壁、心の壁等なく、多様な価値感が共有され、メンバー同士の相互理解が進み、信頼性が深まった経緯がある。特に昨年から続くコロナ禍での孤立感やストレスを共有する場面もあった。自分がいま困っていることをだしあうワークでは、中学生の参加者から、みんなマスクをし、顔が見えずに過ごしている学校生活の様子や授業に活気がない様子が共有されたり、ひとり暮らしの社会人からは、家で独りなので、夜になると寂しさからついつい食べ過ぎてしまうことが共有された。その困り事（課題）を共有し、ストーリーテリングのためのコミュニケーションが始まった。</p> <p>◆ワークショップ①Let' s explore story telling!～ストーリーテリングを知ろう!～</p> <p>11月6日（土）午前10時～12時実施 場所：那覇市民活動支援センター 会議室 参加者：10名 内容：アイスブレイキング、ストーリーテリング概要とストーリーテリングワークショップ</p> <p>◆ワークショップ② Let' s sketch your idea!～アイデアをカタチに～</p> <p>11月13日（土）午前10時～12時 場所：那覇市民活動支援センター会議室 参加者：10名 内容：アイスブレイキング、前回つくったストーリーをプロットタイプ(形)にし共有</p> <p>◆ワークショップ③Let' explore our local community!～コミュニティーを知ろう!～</p> <p>11月20日（土）午前10時～12時 場所：ZOOM オンライン会議</p>
---------------	---

	<p>参加者：6名 内容：新しい参加者へのストーリーテリングワークショップ、それぞれ、次に向けての準備 ◆ワークショップ④ Let' s make it real! ～コミュニティの課題にアプローチ～ 11月27日（土）午前10時～12時 場所：那覇市民活動支援センター 参加者：8名 内容：コミュニティの課題について話し合う、献血活動グループ、クリーン作戦を始めたふたりの市民の話聞く ◆ワークショップ⑤L e t' s share and inspire! ～共有、そしてこれから～ 12月4日（土）午前10時～12時 参加者10名 場所：那覇市民活動支援センター 内容：献血者の不足、国際通りのごみについてのテーマでグループでストーリーテリングと共有 ◆開発教育指導者養成講事業での実践事例紹介・共有（JICA 沖縄） 12月5日（日）午前10時～午後5時 参加者18名 内容：那覇チャレンジ事業でのストーリーテリングワークショップ実践事例の共有</p>
<p>6 実現性・感染症対策</p>	<p>【緊急事態宣言等の発令時における活動の取り組み】 開催日前後の状況を注視し、緊急事態宣言等の発令時には、オンライン会議 zoom を利用した開催への切り替えもできるよう準備を進める。 【コロナウイルス感染症対策】 対面でイベント開催が可能な場合は、手指消毒のための消毒液の設置、マスク着用の依頼、検温、参加者の健康状態の確認等を行う。</p>

7波及効果・今後の展開

企画当初、地域のコミュニティーワークショップとして、那覇で展開し、外国人と日本人の多文化共生の地域づくりにもつなげられる地域のコミュニティーワークショップとして、那覇で展開し、外国人と日本人の多文化共生の地域づくりにもつなげられる、ことを想定してはいたが、具体的に実施し、参加者といろいろな気づきを共有することで、その有効性が確認できた。今後も継続的に実施しながら、内容検討や広がりをつくっていききたい。

<参加者からのコメントと私たちの考察>

「自分の悩みをみんなで共有して、気持ち的に楽になりました。」

- ・ストーリーテリングワークショップを通して、参加者が自分のリアルなストーリーを共有することができ、それぞれのモチベーションが生まれた。日頃ひとりで考えていることを共有することから始まった。
- ・コロナ禍の孤立感、不安感をもった参加者が出会い、ストーリーテリングでのコミュニケーションが生まれ、発想の展開は広がりをみせた。自己開示と受容がされていた。
- ・言語への壁が低くなり、「困っていることは一緒に考えるチャンス」を大切にしたい。

「ラフルさんとスバスさんの話、とても考えさせられました。」

- ・地域活動をするネパール出身者のストーリーを動画作成し、共有できたことで、彼らの想いや活動に触れ、刺激を受ける機会につながった。また、本ワークショップがきっかけとなり、ふたりのストーリー提供者の活動の場が広がった。
- ・直接的、間接的に人から人へ、ストーリーが共有され、ラジオのインタビュー出演に繋がるケースになった。多くの人にストーリーが共有され、エンパワーされた人が多くいると推測する。本ワークショップの参加者から、大学でのワークショップ、イベントでのスピーカー、ラジオインタビューという広がりを見せた。
- ・またゲストスピーカーのひとり、南部の高校でゲストスピーカーを務め、献血をテーマに想いを伝え、高校生をエンパワーした。

「ひとつのストーリーからみんなが協力して作成して楽しかった！！」

- ・ネットワークでコネクションをつくっていくことで、地域に浸透しいけると考える。
- ・本ワークショップは、子ども、若者からの広がりが期待される。

「自分自身の問題ではなかったけど、話しているうちに、自分にも通じる
ところがあった」

- ・困っていることを共有し、一緒にストーリーを作り、解決の糸口がみつけれられると考える。そのためにストーリーテリングワークショップのプロセスが有効になってくると考える。

「日本はまだ多様性に慣れてないなあと毎日思います。どうしたら誰でも自然に
過ごしやすいのか？」

- ・多文化は外国人のためではなく、自分のため、誰もが安心して過ごせる多文化共社会で

	<p>うくりだということにつなげたい。生社会のためであるという気づきにつなげた</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファシリテーターは英語での説明だったが、文法的ではないコミュニケーションが成立していた→多文化共生社会につながる <p>「私も EIC のメンバーになれますか？」</p> <p>ワークショップ終了後に、参加者のひとりからメールでの問い合わせがあった。一緒に活動をしていきたいという希望であり、市民の主体的な活動につながっていることを嬉しく思う。</p>																	
8 その他の反省点など、今後のこと	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍での開催には、予定をたてるのが少し困難であったが、コロナ禍だからこそ、人とのコミュニケーション、ストーリーシェアの必要性が高いとみられた。 ・地域活動団体との連携、コラボでの実施をすることも検討したい。日本語サークル、他のグループ、学校等。 ・学生（中学生、高校生、大学生）対象に実施もやっていきたい。 ・日本語を学ぶ場所だと思い来た参加者がおり、地域での日本語学習の場の必要性もみえてきた。 ・困ってること探すこと、問題の認識、問題の捉え方の練習が必要だと感じた。 ・社会課題の視点をもつリソースパーソンとの連携も検討したい。 ・問題の捉え方のヒントを得られるファシリテーターがいたら、より課題にアプローチしやすいのではないかと考える。 ・私たち自身が、いろいろな人と連携することで、ユニークなストーリーテリングワークショップにしていける可能性を考えている。 																	
9 スケジュール (なるべく詳細に記入してください。予定でかまいません)	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="389 1267 676 1323">時期</th> <th data-bbox="676 1267 1495 1323">内容（場所・参加対象・人数など）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="389 1323 676 1368">7月</td> <td data-bbox="676 1323 1495 1368">内容調整</td> </tr> <tr> <td data-bbox="389 1368 676 1413">8月</td> <td data-bbox="676 1368 1495 1413">内容調整、MIT オンラインワークショップでの検証</td> </tr> <tr> <td data-bbox="389 1413 676 1458">9月</td> <td data-bbox="676 1413 1495 1458">内容調整</td> </tr> <tr> <td data-bbox="389 1458 676 1503">10月</td> <td data-bbox="676 1458 1495 1503">内容調整、</td> </tr> <tr> <td data-bbox="389 1503 676 1760">11月</td> <td data-bbox="676 1503 1495 1760"> ワークショップ① 参加者 10名 ワークショップ② 参加者 10名 ワークショップ③ 参加者 6名 ワークショップ④ 参加者 8名 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="389 1760 676 1951">12月</td> <td data-bbox="676 1760 1495 1951"> ワークショップ⑤ 参加者 10名 このワークショップ実践の依頼があり、那覇チャレンジ事業として紹介、実践を行った。 開発教育指導者養成講座（JIC 沖縄 A） 参加者 18名 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="389 1951 676 2002">1月</td> <td data-bbox="676 1951 1495 2002">まとめ</td> </tr> </tbody> </table>	時期	内容（場所・参加対象・人数など）	7月	内容調整	8月	内容調整、MIT オンラインワークショップでの検証	9月	内容調整	10月	内容調整、	11月	ワークショップ① 参加者 10名 ワークショップ② 参加者 10名 ワークショップ③ 参加者 6名 ワークショップ④ 参加者 8名	12月	ワークショップ⑤ 参加者 10名 このワークショップ実践の依頼があり、那覇チャレンジ事業として紹介、実践を行った。 開発教育指導者養成講座（JIC 沖縄 A） 参加者 18名	1月	まとめ	
時期	内容（場所・参加対象・人数など）																	
7月	内容調整																	
8月	内容調整、MIT オンラインワークショップでの検証																	
9月	内容調整																	
10月	内容調整、																	
11月	ワークショップ① 参加者 10名 ワークショップ② 参加者 10名 ワークショップ③ 参加者 6名 ワークショップ④ 参加者 8名																	
12月	ワークショップ⑤ 参加者 10名 このワークショップ実践の依頼があり、那覇チャレンジ事業として紹介、実践を行った。 開発教育指導者養成講座（JIC 沖縄 A） 参加者 18名																	
1月	まとめ																	

